

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事業所の目の届くところに掲示し意識を持って実践するように努めている。	・Gホームまゆ「運営理念」を作成しており、掲示している。職員の面接では理念を自然に言えるなど理解している。	・どのような過程で作成されたのかがわかるように作成日や作成者の記載があるとわかりやすいです。状況に応じて理念を見直し作りかえる場合があります。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出向いて参加したり、施設の祭で、獅子舞に舞っていただく等、参加出来る場を大切にしている。	・地域からの回覧板により「地域祭り」「獅子舞」「地域合同草取り」等に参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で民生委員さん等にお話をし、地区に発信して頂ける様伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	徘徊ネットワークの提案をし、頂いた意見から話し合いを取り入れる。又、サービスの実例を報告し、評価もして頂く等しています。	・2カ月に1度運営推進会議を開催している。AED設置の提案、日常業務の問題課題点について記録しております。区長、民生委員、安心相談員、包括支援センター、行政、家族会代表が参加している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、福祉課、地域包括支援センターから会議に出席して頂き、情報提供を頂いたり相談にのって頂いております。	・地域包括支援センターとの打ち合わせを必要に応じて実施している。 ・市担当者には、利用者のニーズや暮らしぶりを会議の折伝え、連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が意識を持って、施錠しないケアに取り組んでいます。	・出ていく気配を見逃さないよう見守りや連携プレーにより対応している。 ・2階3階であるため安全上の観点から夜間一部施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、会議にて発表してもらい、再認識して努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要となった場合に支援するようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明が行なえる様、契約時に相応な時間を頂ける様、前もって伝えておきます。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様とのコミュニケーションも大切にし、意見・要望を言い易い関係作りに心掛け、その旨を前向きに生かせるよう努めています。	・家族会を立ち上げ11月14日に開催し8家族9名が参加した。家族会等では意見や要望が言いやすい雰囲気作りに配慮している。	・家族会の継続的实施と家族への報告、情報伝達の方法、また家族からの意見・要望の反映方法についてマニュアル化等手順化することを希望します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に聞く体制をもち活かすようにしています。	・毎月スタッフ会議(全体会議)、フロアー会議を開催し、要望や意見を聞くようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成にあたり希望を聞き、役割を決める等やりがいをもって頂けるよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修会毎に全員が参加出来る様割り振りをし、資格取得の推進も計っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域グループホーム会議に参加したり、同会社にて、職員の交換実習を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談時等に十分に情報交換し、その際信頼頂ける様努めています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>契約時に十分な情報収集を行い、職員全員が共有しその後の関係作りにも努力しています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>都度ご家族との話し合いを持ち対応するようにしています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>やってあげるという立場でないことを常に意識していけるよう努めています。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族にも相談しながら、どちらか一方が頑張るのではない関係でいられるようにしています。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>いつでも、どなたでも訪ねて来易い環境作り努めています。</p>	<p>・利用者の家族へは自由な時間に訪問できることを伝え家族が来易い環境に努めている。</p> <p>・利用者の教会への礼拝を支援したり、安心相談員が利用者に代わりお墓参りする等の支援をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々の生活の中で、情報交換し、フロアの席替えや、居心地の良い場の提供に心掛け独立しないような環境作りに努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時等に今後の相談等必要に応じ受ける事で、関係が切れないうまく努めています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員とは日々、雑談の中で入居者について会話をもち取り組んでいるが、さらに違う視点からも取り組みたい。	・日常の会話や雑談の中から職員間で利用者個別の各種情報を共有している。	・センタ-方式の活用などチ-ムで支える共通のツ-ルの利用を期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者から得られることは聞き、不足している情報に関しては、家人・資料から情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を常に認識し、変化がある場合など、その日の職員同士で、意見を言うシステムにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士でしっかりと会話をもち、常に課題を持ち、協力して体制を強化したい。	・サ-ビス担当者会議等でアセスメントを含め意見交換やモニタリングを実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有はうまく機能しているが、課題ややれること等の、介護計画への落とし込みはまだ不十分だと考えられる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ほとんどの職員が、他分野からの転職だが、その経験から新しい発想が生まれる。さらに、年代も広く、多くの意見が出ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後の課題として考えたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。	・入所時に本人や家族に個別に意向、希望を聞いて応じている。 ・愛和病院がかかりつけ医になっている場合は週2回の往診がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当医師との連絡は出来ている。 看護師は不在。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に関しての準備は常に備えるが、医療に関しては専門分野の判断なので、指示どおりに動くように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員同士で話し合い、決定事項は施設長から家族へ伝達している。	・重度化や終末期のあり方については入所時に個別に意向、希望を聞いて一覧表になっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後、さらに訓練し勉強していきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施している。 地域の集まりに参加し呼びかけている。	・年2回(H21.3月、10月)の訓練を「避難訓練実施報告書」を確認しました。	・スプリンクラー - の設置を予定しているので確実な実施を希望します。 ・夜間等さまざまな想定訓練を引き続き実施されることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	やっています。 職員間で呼びかけ、注意している。	・ノックして了解してから部屋に入るなどプライバシーに配慮している。個人情報の使用については個人情報同意書を個別にいただき責任ある取扱いと管理を徹底している。	・個人情報の保護の指針等についてはホ-ムベ-ジヤパンフレット等で利用者や家族にわかりやすく周知してもらうことを希望します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に対してなるべく否定をすることをせず、建設的に向き合うように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく、入居者の方々が寂しい思いをしないように、関わる時間を分担し工夫している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人を尊重し、清潔感があるように努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	支援し、意見を聞き、工夫している。	・1ヶ月先まで食事メニューを作成している。食事の好みについては入所時希望を個別に聞き取りしている。Xmasケーキを共同で作成している。 ・職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声がけや、付き添いをし実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声を掛け、支援している。	・利用者個別の特性を把握し自尊心に配慮し、身体機能に応じ自分でできるよう介助している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在は便秘の入居者はありませんが、いる場合に関しては水分摂取等をしっかりと管理し、自然排便が出来るよう努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に1日間隔にて入浴していますが、無理せずにご本人に合わせて入浴して頂いている。	・基本的には1日おきであるが希望者には毎日入浴できる。入浴剤やゆず湯などで楽しめるよう配慮している。なじみの職員と一緒に1対1で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた際など、休みたい時に休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々に笑ってもらうことを一番に考えて、取り組んでいます。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じる事が出来る外出をなるべく計画し、実施しています。	・中野のバラ園、オリンピックスタジアム、八幡原、善光寺等、食事を伴う外出を行っている。 ・近くのス - パ - 等に買い物に出かけ楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設側で行い、必要なときに使えるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば対応しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感のある環境を重要に、考えております。	・共用の空間については一般的でシンプルな感じを心がけている。写真を掲示し、季節感をに配慮している。トイレは安全配慮を優先している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的ホールがあり、一人部屋になっております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	しています。	・個人の絵や写真、ご仏壇など利用者や家族の意向を最優先とし居心地よさを配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援ができるように努めているが、今後さらに、課題として考えていきたい。		